

令和 2 (2020)年度 基盤研究 (S) 審査結果の所見

研究課題名	地球環境変動・資源生成の真に革新的な統合理論の創成
研究代表者	加藤 泰浩 (東京大学・大学院工学系研究科・教授) ※令和 2 (2020)年 9 月末現在
研究期間	令和 2 (2020)年度～令和 6 (2024)年度
科学研究費委員会審査・評価第二部会における所見	<p>【課題の概要】</p> <p>本研究は応募者グループが開発した化学相序プローブ法を用いて、様々な場所から採取した遠洋性粘土を分析し、統計的なデータ解析により、地球規模の海洋循環変動及び資源の生成メカニズムをモデル化することを目的としている。</p> <hr/> <p>【学術的意義、期待される研究成果等】</p> <p>地中の資源の分布は、マントル活動や海洋循環、気候変動などが有機的に相関し形成されるものであるが、これらを一括してモデル化することができ、資源探索などに大きく貢献することが期待される。</p>